

# 小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 57

2026年03月07日(火)発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

## 学生たちが作り出す絵本の世界を体感するワークショップ

—子どもの想像世界が豊かに広がる楽しい時間—

仲本美央(白梅学園大学子ども学部)

私のゼミナールでは、3年次から子育て支援の一環としてさまざまな地域で絵本の世界を体感するワークショップを開催しています。過去の実績としては、あきる野市の地域子ども育成リーダーとなって取り組んだり、小平市内の仲町図書館や放課後児童クラブ、沖縄県などの保育現場といったさまざまな地域に赴きながら開催したりと、多くの現場と協働して展開してきた経緯があります。今回は、絵本の世界を体感するワークショップにおいて子どもの想像世界が豊かに広がる状況と、その状況が生み出す学生たちの姿について、その一部をご紹介します。ぜひ読んでいただきたいと思います。

2026年2月上旬は、今年度の卒業生にとって学生生活最後の活動日でした。この日の某幼稚園におけるワークショップでは、絵本『クレヨンのはしご』(板橋敦子作・絵、ひさかたチャイルド, 1986)を子どもたちと読みあい、主人公のたっちゃんと同じようにクレヨンで描いたはしごを登ってかみなりさんたちのいる空へたどり着き、さまざまな絵を描いていくという表現活動を企画しました。まず、学生たちが子どもたちの登園前に想像世界に入り込むための環境づくりとして、床や天井、壁に至るまで一面が空にしました(写真1)。

### 小平西地区地域ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？



いよいよ、隣室で登園してきた子どもたちが落ち着いた頃、ワークショップの開始です。学生たちが「みんな

で楽しみたい絵本があるのだけれども読んでもいいかな?」と読み始め、あっという間に絵本の世界に引き込まれていきます。最後のページを読み終わると、たっちゃんから子どもたちへ描き残したところがあるからかみなりさんたちの



ところへ行って描いてきてくれないかという手紙が届いていることが伝えられました。これには、子どもたちも大喜び。すぐに空の世界に飛び込み、クレヨンや絵の具、そして、水を使って瞬く間に彩られていきました



(写真2・3)。ある子どもは一番最初に青い絵の具を指につけてスーッとはしごの絵を描き始めていました(写真4)。きっと、心の中では主人公のたっちゃんのようにはしごを登るという想像世界が豊かに広がっていたに違いありません。



人間は生きていく上で自らの未来に夢を描きながら人生を切り拓いていく力が必要です。しかしながら、想像する力なくてはこの夢を描くことはできないのではないのでしょうか。だからこそ、これからも、ゼミナールの学生たちと共に、地域の中で子どもたちの想像する力が育まれるワークショップを開催し続けていきたいと願っております。

## 地域連携キャリア啓発プロジェクト活動

### 白梅学園大学・白梅学園短期大学

### キャリアサポート課 熊田寛子

白梅学園大学・白梅学園短期大学では、学生のキャリア形成に向けて、年間7～8件のプロジェクト活動を実施しています。地域の皆さんからいただいた気づきや困り事、お誘い等をキャリアサポート課から学生に投げかけ、関わってみたい学生がチームを組んで課題解決に取り組んでいます。今回は2025年度の活動から2件をご紹介します。

#### ①. こどもサポーターになろう (10月～11月)

参加学生数：16名

小平市子ども家庭支援センターとのコラボ企画で「こどもサポーター養成講座」として、こどもサポーターを目指して活動に取り組みました。初回はセンター職員が白梅に来校してくださり、子どもにとって「居場所」とは何か、人との関わりを視点にグループワークを行いました。その後、支援を要する子どもと学生の出会いを大切にしようと、チームの学生たちは授業の合間に集まり、子どもと学生がペアを組んで遊ぶ「遊びの会」の企画・準備を進めました。「遊びの会」では折り紙や玉投げ等で遊びながらペアの子どもと時間を過ごし、学生一人ひとりが自分の中で芽生えた思いを大切に持ち帰りました。

#### ②. 百人一首で世代間交流をしよう (11月～1月)

参加学生数：17名

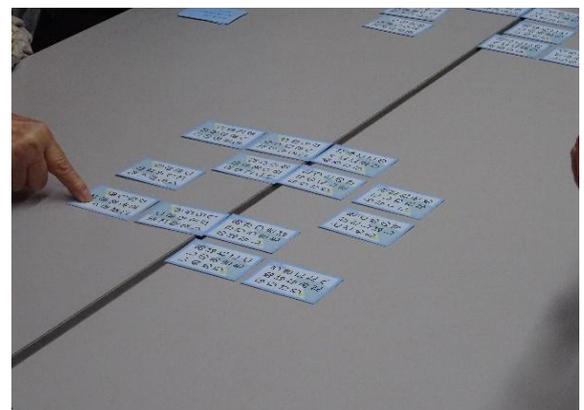
小川公民館とのコラボ企画で、シニア向け「五色百人一首講座」と土曜こども広場友・遊「五色百人一首で勝負!」を組み合わせ、世代間交流を狙って活動しました。五色百人一首は主に小学校で取り組まれている1試合5分程度で楽しめる百人

一首です。学生×高齢者×子どもで、スマホやゲーム機では味わえない遊びを体験したいと工夫しました。シニア向け講座では懐かしい小学校の授業風に学生が各5分間で和歌の紹介をしたり、試合の上位4人に賞状を渡したり、シニアの皆さんも学生も笑顔が絶えない時間を過ごしました。こども広場ではシニアの参加者を交え、学生も子どもとの試合に参戦し、世代を超えた交流を満喫し



ました。

2025年11月1日 遊びの会



2025年11月29日 五色百人一首講座

# 今も昔も地域を駆けめぐりながら

## 丸山安三(ピッコロ理事/信愛の園元施設長)

私は今、ピッコロの他、清瀬市社会福祉協議会など十の団体役員としてその運営に関わっています。

二十代、夜間大学を卒業し福祉の道へ。知的障害者施設ヨハネ学園、ハンセン病施設の全生園を経て、昭和54年、清瀬市梅園に出来た信愛デイケアセンターに入職しました。

信愛報恩会は永年の結核患者の救済から、昭和15年に無料低額診療施設を、昭和45年特別養護老人ホームを、昭和54年に在宅高齢者の為の信愛デイケアセンターを開設しました。当時は在宅高齢者とその家族への福祉サービスは全く無く、全国的にも東京多摩地域に2か所できたばかりで、信愛は3番目でした。

バスやワゴン車で近隣五市(小平・東村山・東大和・東久留米・清瀬)を送迎し、センターでリハビリや趣味活動を行うサービスの他、寝たきりの高齢者の入浴サービス、短期宿泊のショートステイが主な活動メニューでした。それから在宅介護支援センターやヘルパーステーションなどを開設。総合的な高齢者の支援事業に他法人と共に携

わってきました。それらは介護保険制度へと結実し、今日を迎えています。

また平成7年には、妻が小平市内に新設されたシルバーピアのワーデンを希望し、家族で都営住宅に入居。24時間緊急通報に対応し、入居者の安全と友好活動に14年間携わりました。シルバーピアは高齢者にとってとても安心できる場所で、子育てをしながらの妻の頑張りに感心したものでした。

定年退職後は、地元地域の現場に貢献をと、住まいに近い小川ホームでホームヘルパーとして登録させていただきました。早朝に地元の美術大学の清掃作業を行い、その後ヘルパーとして高齢男性宅へ援助に回っています。小平市の介護予防ボランティアとしても、昨年は二人の高齢単身男性の相談を受け、包括支援センターに繋げ、窮地を乗り越えてもらうことができました。

また、東日本大震災にあわれた地域の女性達の手作り小物の移動販売も、信愛から受け継ぎ、今も各地を回っています。(西ネット第一ブロック世話人)

## フードバンク事業とは 一般社団法人フードバンクこだいら 代表理事 三富和子

フードバンクこだいらは、2024年8月に設立したばかりの事業です。それまでは子育て支援事業を行い、その中で是非ともやってみたく思っていた子ども食堂事業を加えて活動しておりました。フードバンクとは何をやる活動なのか?賞味期限切れ近くの商品、スーパーなどの店頭に出せなくなった商品が無償で寄付していただき、それを食を必要とする福祉・支援施設・団体やさまざまな事情で生活困窮されている方々に無償で配布するフードロスをなくすためのかけ橋だと思っております。

特に私は日野にあるフードバンク TAMA さんの影響がとても大きく、ひとり親家庭・子育て貧困家庭への物資提供を行うことをメインに活動してお

ります。その中で子ども食堂さんへの物資提供をおこなうことが私の中で一番活動に力をいれている一つでもあります。それは子ども食堂を3年前から始めた活動の一つでもあり、そこに来る方々は、何かしらの理由をもって来ています。

ひとり親家庭だけでなく、子育て貧困家庭・高齢者の一人暮らしの家庭など何かしらの手助けを必要としているのではないかと思います。その食堂を開催している方々に渡すことが、自分一人ではできない活動を、一緒に広げてくれると思っていますからです。

それだけでなく自分の活動は、社会福祉協議会さんやこども家庭支援センターさん、児童養護施設にも輪を広げています。気が付くと小平市内に

役に立てる活動ができはじめているのかなと思う時もあります。まだまだこれからですが、皆さんにもできることです。ただ、食品を手にしていた

だきそれを無駄にしない事だけです。皆さんと一緒にできる事業をこれからも頑張っていきます。

# 人工知能(AI)は基礎研究をどう変えるか？

## — 仮説生成から発見までを担う現在の AI —

**松田佳尚(白梅学園大学 子ども学部 子ども心理学科・教授)**

人工知能(AI)は、私たちが想像していた以上の速さで、科学研究の進め方そのものを大きく変えています。これまでの研究では、人間が文献を読み、仮説を立て、実験を行い、その結果を検討するという流れが基本でした。AIは当初、画像解析や統計計算などを効率化する「補助役」として使われてきましたが、現在では研究の中心的な思考過程にまで関わる存在になりつつあります。

近年の生成AIは、膨大な論文やデータを一度に分析し、関連する研究を整理したり、まだ十分に研究されていない新しい問いを提示したりできます。これは単なる検索の高速化ではなく、研究全体を俯瞰し、新しい視点を与える働きです。そのため、AIをうまく活用できるかどうか、研究の質やスピードを左右する重要な要素になっています。

さらに注目されるのは、AIが仮説を生み出す段階にまで進出している点です。理論物理学の分野では、大規模言語モデルが新しい数式の関係性を導き出し、既存理論を発展させた例が報告されています。研究者の中には、AIを「共著者の一人のようだ」と表現する人もいます。分野が違って、仮説を立て、関係性を見つけ、検証可能な形にするという研究の基本構造は共通しています。AIは大量のデータから人間が気づきにくいパターンを見つけ、新しい問いを研究者に示す役割を果たし始めているのです。

生命科学や医療の分野でも、AIの影響は非

常に大きいです。特に創薬研究では、イギリスを中心に劇的な成果が生まれています。従来は10年以上かかることも多かった新薬開発の初期段階が、AIによって数ヶ月、場合によっては数日まで短縮されています。例えば、スーパー耐性菌に関する難問を、AIがわずか2日で解決した事例も報告されています。これは、Google DeepMindの技術や、タンパク質構造を高精度で予測するAlphaFoldの応用による成果です。

材料科学でも同様の変化が起きています。AIは、これまで人類が発見してきた数を大きく上回る新素材の候補を一度に予測しました。これにより、高性能な電池や太陽光パネル、超伝導体の開発が大幅に加速しています。分子生物学では、最新のAIがタンパク質だけでなく、DNAやRNA、小さな分子との相互作用まで予測できるようになり、病気の仕組みの理解や副作用の少ない治療法の設計が早まりつつあります。

数学の分野でも、AIは国際数学オリンピックレベルの難問を解くなど、人間の高度な思考に近づいています。これは数学そのものだけでなく、計算アルゴリズムの改良を通じて、コンピュータ全体の性能向上にもつながっています。さらにエネルギー工学では、AIが大量のデータから新しい磁石材料を見つけ出し、希少な資源に依存しない持続可能な技術への道を開いています。

このように、AIは「情報を探す道具」から、

「仮説を生み、発見を支える研究パートナー」へと進化しています。もちろん、AI が示した仮説が正しいかどうかを最終的に判断し、実験で確かめるのは人間研究者の役割です。し

かし、AI によって研究のスピードと可能性が飛躍的に広がっていることは確かです。今後、AI と協働する研究スタイルは、科学の新しい標準となっていくでしょう。

## 「いす組の橙ジュース」

### 松尾桃子(白梅幼稚園教員)

白梅幼稚園では、今年度から新しく満三歳児クラスの「いす組」が開設されました。7月から毎月少しずつ新入園児を迎えながら、今では14人の子どもたちが生活をしています。



いす組の子どもたちもすっかり幼稚園生活に慣れた三学期、寒さのゆるむ温かな日に白梅学園大学の中庭へ散歩に出かけました。メインの

目的は、敷地内に生えている金柑の木です。担任が実を採ってパクッと食べて見せると「食べたい!」「採りたい!」と次々に手を伸ばし始める子どもたち。採った実をそのまま頬張る子もいれば、牛乳パックで作ったかばんに「おかあさんにあげるの」と集める子もいました。金柑の横には橙の木もあり、せっかくなのでこちらの実も採らせてもらうことにしました。調べたところ、橙は酸味が強いのでそのまま食べるのには向きませんが、ポン酢やシロップ漬けにすると食べられるとのことでした。散歩の翌日、担任が「みんなが採ってきた橙でジュースの素を作ってみよ

う」と子どもたちに話すと、キラキラッと目が輝き「やりたーい!」の返事が聞こえてきました。

その翌日、いす組の保育室で橙シロップ作りが行われました。瓶の中へ切った橙と氷砂糖を交互に重ねていくと、もうすでに底の方にシロップができ始めていました。翌日にはかなり水位が上がっているのを発見して「あ!増えたよ!」「溶けてる!」「もう飲める?」と子どもたちが瓶を囲んで口々に話し



ます。「氷砂糖が全部溶けたら飲めるんだよ」という担任の言葉を聞いて、その後も「いっぱいになってきた」「氷砂糖小さくなったね」「橙も溶

けるかな」と変化を見守ってきました。

さて、もうそろそろ氷砂糖が溶けきる頃です。今か今かと完成を待ちわびている橙ジュースのお味はいかに?! いす組みんなで行った散歩やシロップ作りの思い出と一緒に、子どもたちとじっくり味わいたいと思います。

# 白梅子育て広場 20 周年に寄せて

学生が中心となって取り組んだ「白梅子育て広場」がこの4月で開始以来20年が経過します。「子育て広場 20 周年記念誌発行委員会」では3月に向けて、過去広場に関わった卒業生や旧職員等に声をかけて冊子づくりを進めてきました。本号ではその記念誌の中からいくつか紹介して地域の皆様と一緒にふり返ってみたいと思います。なお冊子は多少余分がありますので希望される方は白梅学園の教学企画室にお問い合わせください。

## 2024 年度の白梅子育て広場の活動

### 山川 琴音

2022 年度、2023 年度の GP 学生委員会では、小平市内にある企業や社会福祉施設、他大学等と連携してイベントの開催をすることを通して、地域に根差した「白梅子育て広場」を目指して活動していました。

これを踏まえ、2024 年度は、これら外部との連携を継続するとともに、学内でのつながりを強めることに力を入れて活動しました。この「学内でのつながり」は、学生同士のつながりと、学生と教職員間のつながりの2つがあります。学生同士のつながりは、学年の壁を越えて相談や連携ができるよう信頼関係の構築から始めました。これにより、企画でやってみたいことが出てきた際に相談してくれたり、何気ない会話が増えたりし、「白梅子育て広場」の組織全体としても良い関係性を築けていたように感じます。

1、2 年生からこれまでやったことのなかったアイデアが生まれ、上級生と相談しながら実践できる環境を整えることもできまし

た。そのため、安全性を確保しながらも、これまでの企画からさらに発展させた遊びを用意することができ、「白梅子育て広場」の活動としても幅を広げるとともに、学生も参加者もより豊かな経験ができる場になったと考えます。

また、教職員方には企画の広報をすることで、「白梅子育て広場」の活動を知ってもらう機会をつくりました。これまで「白梅子育て広場」について知らなかった教職員方からも興味や関心を向けていただいたり、応援していただいたりするきっかけになりました。「白梅子育て広場」は学校の中にある学生団体であるため、学校や教職員方と信頼関係を築いてつながりを強めることは、安定した組織運営にもつながる重要な要素だと考えます。

2024 年度を通して、「白梅子育て広場」があり続けるためには、様々な方からの援助が必要であり、そのためにも学内外の両輪で関係性を築くことが大切なのだと考えました。

## 白梅子育て広場 20 周年を迎えて

### 庭野晃子

「白梅子育て広場」が20周年という記念すべき節目を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。私自身、白梅学園大学に着任して10年が経ちました。それと同時に、この広場の運営に携わらせていただくようになってからも、早いもので10年の月日が流れたこととなります。この10年、広場で交わされた数えきれないほどの笑顔や言葉は、私にとってかけがえのない財産となっています。

### 学生たちの成長と居場所としての広場

広場に足を踏み入れるたびに私の心を打つのは、学生たちの主体的で生き生きとした姿です。教科書で学ぶ理論だけでは得られない、子どもたちの予測不可能な動きや保護者の皆様の切実な想いに触れる中で、学生たちは自ら考え、動き、成長していきます。何より印象的なのは、活動中の学生たちの表情です。子どもたちの純粋な反応に触れ、試行錯誤しながら関わる彼らの顔は、実に晴れやかで輝いています。広場は、学生にとって自分自身が受け入れられ、必要とされる「大切な居場所」であると同時に、将来の子育て支援を担う「専門家」を養成する真剣な学びの場でもあります。ここで育った学生たち

が、やがて地域の子どもたちの未来を支える力となることを確信しています。

### 変化する時代の中で、変わらぬ温もりを

この広場は、訪れるすべての人を幸せにする力を持っています。保護者がホッと一息つき、子どもたちがのびのびと遊び、そこに学生の若々しいエネルギーが混ざり合う。そこには、立場を超えて人間同士が響き合う温かな時間が流れています。

設立から20年が経ち、社会は驚くべきスピードで変化しました。現代は「VUCA（予測不能）」な時代と言われ、子育てを取り巻く環境も以前より複雑で困難なものになっています。だからこそ、私たちは「今、この広場に求められている役割は何か」を常に問い続けなければなりません。

### これからの展望

20周年は通過点に過ぎません。これからも、社会の変化に柔軟に対応しながらも、根底にある「人を大切にする」という精神を持ち続けてほしいと思います。白梅子育て広場が、これからも多様な人々が行き交い、誰にとっても心が安らぐ「温かな場」であり続けることを願っております。

新年に思う

金田利子

<本歌取り3首>

- ・めでたさもどンドン下る「民が春」 せめて越えよう中くらいをも
- ・労働歌つわものどもが夢の後 今こそ歌わん「がんばろう」など
- ・瀬をはやみ民主連合崩れども 野党連携ならんとぞ思ふ

<朝大生の演奏会に参加して>

- ・解放後80年を振り返り 音で奏でる若きらの意思
- 3月の歌 急な総選挙を終えて
- ・追い風に押され生まれし新政権 軍事で平和は成り立ちませぬ
- ・参院は無くてもいいという声は 民主政治の根源否定
- ・要求が違えば対話をつづけたし 武力は双方傷つけるのみ
- ・伝えあい国も個人も人類の この知恵信じ新たな風を

# この夏、社会教育研究全国集会(東京・白梅学園集会)にご参加を

## 実行委員会事務局次長 岩松真紀

2026年8月1日(土)・2日(日)、白梅学園大学・白梅学園短期大学(東京都小平市小川町1-830)をメイン会場として、第65回社会教育研究全国集会が開催されます。現在は実行委員会を立ち上げ、準備を進めているところです。この集会には、社会教育・生涯学習にかかわる研究者や職員だけでなく、地域で活動している多様な市民の方々も多く参加されます。一昨年は東北福島集会、昨年は北海道恵庭集会でした。東京多摩地域での開催は1998年の都立大学(八王子)集会以来です。この機会にぜひ参加をご検討ください。

一日目には、開会行事の後、少し大きめの課題を扱う課題別学習会(子ども・子育て支援、自治体改革、現代的人権、高校生向けプログラム、日韓実践研究交流等を予定)を実施します。二日目には、もっと細かく分けた18(予定)の分科会を開催します(①子ども、②子育て・親育ち、③若者、④地域福祉、⑤障がい、⑥女性、⑦平和、⑧多文化・人権、⑨自治体改革、⑩農業、⑪住民主体、⑫環境、⑬公民館、⑭図書館、⑮博物館、⑯社会教育職員、⑰地域文化、⑱地域と学校)。各分科会では小平市のある多摩地域での活動や実践を中心に、全国での報告を交えながら交流や議論

が広げられる予定です。

大人の参加費は3,000円程度(終了後の報告書送付あり、交流会別)を予定しています。一部の分科会はオンラインとのハイブリット開催で、閉会集会は8月29日(土)にオンラインでのみ開催予定。

集会に関する情報は、社会教育推進全国協議会のウェブサイト(<https://japse.sakura.ne.jp>)や「月刊社会教育」(旬報社)の紙面で随時お知らせします。300人の参加者が目標です。

○集会名称：第65回社会教育研究全国集会(東京・白梅学園集会)

主催：第65回社会教育研究全国集会実行委員会

後援：白梅学園大学・白梅学園短期大学、協力：白梅学園大学・白梅学園短期大学 子ども学研究所

○連絡先(事務局)：社会教育推進全国協議会(japse@nifty.com)

○実行委員長：森山千賀子さん(白梅学園大学教授)、副委員長：辻浩さん(社全協委員長)、細江卓朗さん(白梅学園理事)、事務局長：朝岡幸彦さん(白梅学園大学特任教授)、事務局次長：星野一人さん、岩松真紀さん

### 皆さん、コミュニティサロンと「中学生勉強会」に足を運んでみませんか?

## お待ちしております!

### ① ほっとスペース第二きよか

毎月第1月曜 13:30~15:30 参加費200円(移転先：小平市小川町1-755-2-106) 問合せ：瀧口優 TEL: 080-3450-6878

\*2023年7月10日(月)「ほっとスペース第二きよか」がスタートしました。

\*第一もしくは第二月曜に実施しています。(今後の予定は、4月6日、5月11日、6月1日、7月6日)13時30分~15時30分です。

### ③ 「分かった会」小中無科学習教室

毎週木曜日 18:00~20:00 (小川公民館) 問合せ：奈良 勝行 (講師募集中!) TEL:090-4435-4306

9月からは火曜日にも中学校3年生用として開室しています。

#### 西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・福丸由佳
2	足立隆子・今野志保子	午頭潤子・吉村季織
3	大内智恵子・久保田進・杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠・細江卓朗	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行

【お願い】：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。

【編集後記】：「小平西のきずな」も今回で57号を迎えます。西ネットのスタートから13年が経過していますが、今後も人と人をつなげることを柱に取り組みを続けたいと思います。(瀧口)。

